

研究結果報告書

日本説話における「夢告」「讖緯」「童話」など未来記についての考察：
ベトナムの漢文説話との比較

所属： 社会科学アカデミー、漢喃研究所
役職： 准教授
氏名： グエン・ティ・オアイン(Dr. Nguyen Thi Oanh)

ベトナムの漢文史書やと漢文説話などに描かれた「前生譚」、「夢告譚」、「讖記」、「童謡」は、日本における未来記や夢の記、また説話など、類似する要素が多く、国際的な文化研究として比較検討する意義が大きい。しかしそれらについてのベトナムにおける研究業績は、日本に比べてまだまだ少ない。さらに日本の説話総体と日本説話における「夢」「童謡」など「未来記」「予言文学」に関する知識を持ちつつ、ベトナムの古典文学を研究する者は皆無と断言している。また、漢字文化圏の相互交流という歴史背景を踏まえてこの問題が研究されることはなかったし、外国語ができないベトナム人の研究者が外国人の研究業績を継承することもできず、日本の説話文学における未来記に関する研究を行った研究者の研究業績についてほとんど利用できなかったというのがこれまでの状況であった。

そこで、2013年度、住友財団から研究助成を受けて、2ヶ月間（2013年7月から8月まで）、受け入れ先の国際日本文化研究センターの説話の専門家荒木浩教授の研究室を拠点とし、「日本説話における「夢告」「讖緯」「童謡」など未来記についての考察—ベトナムの漢文説話との比較」というテーマについて、研究を進めた。まず日文研の図書館を始め、東京大学・京都大学の図書館、国会図書館、国立資料館の図書館で資料調査をして、日本の説話における「夢告」「讖文」「童謡」の未来記、予言文学に関する資料を収集を蒐集した。そして国際日本文化研究センター共同研究「夢と表象—メディア・歴史・文化」（荒木浩・研究体表）に出席し、これまでのベトナムの漢文説話に関する研究情報、自身の研究過程で得られた体験を提示し、荒木浩教授ほか日本の専門家に日本説話における未来記、予言文学についての意見を仰ぎ、日本の説話における「夢」について、資料を蒐集し、研究したのである。帰国後は、まず、社会科学アカデミーに属している文学研究所が主催する「文学と信仰文化」というシンポジウムに出席し、「日本の説話における未来記について」口頭で発表した。次に、『今昔物語集』における未来記について日本で研究した成果について、「『今昔物語集』における「夢説」についての考察—ベトナム漢文説話との比較」という論文を書き、は漢喃雑誌に投稿した。2014年、4号（125）に掲載の予定である。また、日本の説話における未来記、予言文学に関して研究した結果についても、『ベトナム・中国・日本における説話の比較研究』第二章「日本説話における未来記について—ベトナムの漢文説話との比較」という論文をすでに書き上げた。社会科学出版社へ投稿して、2015年に出版する予定である。現在に至るまで、日文研をはじめ、立教大学、奈良女子大学、茨城大学、学院大学、ソウル大学、北京大学などに所属する日本の専門家、外国研究者と情報を交換し、研究交流を続けている。

こうした研究を進展させれば、さらに「日本の説話における「夢告」「讖文」「童謡」—ベトナムとの比較」という研究テーマの成果をより国際的・学際的に展開させることができ、ベトナムにおける日本文学、文化の知識を一層豊富にすることができる。同時に日越の文学、学術交流を促進させ、そしてまた、漢文文化圏の文学研究にも、大きな意義を持つ研究結果が得られると思われる。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

社会科学アカデミー、文学研究所が主催された「文学と信仰文化」というシンポジウムに出席して、「日本の説話における予言文学について」、口頭で発表した(2014年3月7日)。論文は紀要に掲載する予定。

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

「『今昔物語集』における「夢」についての考察—ベトナム漢文説話との比較」、漢喃雑誌、2014年、4号(125)(掲載予定)。

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

『ベトナム・中国・日本における説話の比較研究』、社会科学出版社、2015(出版予定)